

2008年4月25日(金)  
「サンクトペテルブルグ・ビジネス戦略会議」  
ラウンドテーブル3

株式会社ジェイティーピー本社  
旅行事業本部  
国際部長 古澤 徹

スピーチ表題「日本の旅行会社からみたサンクトペテルブルグの観光魅力と発展の課題」

(自己紹介)

日本の海外旅行マーケットの現況と趨勢

- ・日本人の海外旅行者のボリュームは1年間に大体1700万人程度でここ数年間は1700～1800万人の間で推移している。
- ・出国率、即ち海外旅行者数を総人口で割ったパーセンテージは大体14%程度。
- ・旅行先は2006年度の統計では中国が一番多く約350万人、以下韓国、ハワイ、アメリカ本土、香港、タイ、台湾と続き、いずれも100万人を上回る。
- ・2001年米国テロ以降海外旅行者数の伸びが鈍化しているが、長いスパンで見れば海外旅行マーケットは成長し、大幅にマーケットがシュリンクすることは無いと考える。
- ・一方、マーケットの成熟化、円熟化も現在の傾向の一つ。  
即ち、ファーストタイマーが多くいる一方、何度も経験済みのリピーターが存在。  
新しいデステイネーションやアイテナリーを求める傾向にある。

日本の海外旅行マーケットにおけるロシア、サンクトペテルブルグのポジショニング

- ・まずはじめにペテルブルグ、引いてはロシアは日本人にとって古くて新しいデステイネーションであり、それゆえに成長の可能性を大きく保有している。新しさ故の成長の可能性ではなく、ペテルブルグ自体が保有する様々な魅力が大きな可能性を感じさせる。
- ・その様々な魅力を具体的に言う。
- ・エカテリーナ宮殿やエルミタージュ美術館に代表される豊富な歴史文化遺産。
- ・整った街並みと清潔さ、すなわち、18世紀から19世紀にかけてのバロック建築様式やクラシック建築様式の共に巨大で美しい建造物によるハーモニーが醸成された街並み。
- ・世界的な美術館や高い質のオペラやバレエといった文化と芸術が提供される魅力。
- ・日本人にも馴染みのあるロシアグルメが堪能できること。
- ・ヘルシンキを始めとする北欧、タリンを始めとするバルト諸国とのアクセスが良い。
- ・そして、トランスエアロ航空の直行便の就航はその成長の可能性に一層ドライブ。

観光の発展のための様々な課題

- ・解決すべき課題も多い。
- ・旅行をするにあたって必要な査証、ビザの問題。  
これは入国管理という面、二国間に跨るといふ面があり、簡単でないことは十分理解するが、観光に限っての緩和措置を検討できないか。  
また、今後増加すると見込まれる修学旅行や姉妹都市間のロシア、日本の相互訪問などという国際交流。そういう性格の観光交流に対しての減免措置などの検討。
- ・交通事情、交通渋滞が激しく計画通りに旅行を運営できない事がある。
- ・日本での観光プロモーションの強化、観光局の設置、業界向けセミナーや研修旅行の実施。

今後の発展のためにサンクトペテルブルグと日本が夫々すべきこと

